

伊賀遍路

ありがたや 大師と巡る 伊賀の国

霊場参拝のしかた

※手水場・香炉・灯明立などが無い寺院では省略してください。
※無住の寺院では、据置きの朱印を自分で押し頂くこととなります。その際、納経料はお賽銭箱にお納めください。



①札所に着いたら、山門(境内入口)にて合掌・一礼します。金剛杖をお持ちの場合は、片手合掌で構いません。



②手水場で手を洗い、口をすすいで心身を清めます。水は、飲まないようにします。



③持参した線香と灯明をお供えし、お賽銭をあげます。同時に、お写経や納経札を納めます。



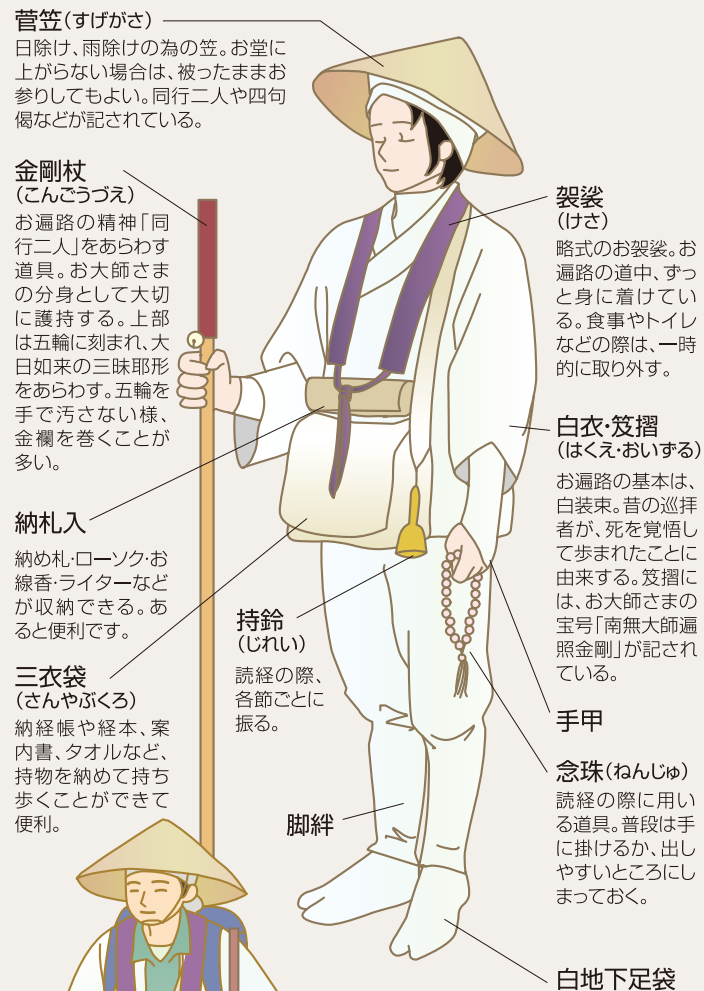
④鰐口を鳴らして、気持ちを落ち着けてから読経します。経本を開き、一字一字ていねいにお唱えしましょう。



⑤納経帳に、ご朱印を頂きます。札所を訪れてすぐにお問い合わせしておくと、時間を有効に使えます。

⑥札所から出る時も、①と同様に合掌・一礼します。

お遍路の服装と持物



菅笠(すげがさ)
日除け、雨除けの為の笠。お堂に上がらない場合は、被ったままお参りしてもよい。同行二人や四句偈などが記されている。

金剛杖(こんごうづえ)
お遍路の精神「同行二人」をあらわす道具。お大師さまの分身として大切に護持する。上部は五輪に刻まれ、大日如来の三昧耶形をあらわす。五輪を手で汚さない様、金襴を巻くことが多い。

納札入
納め札・ローソク・お線香・ライターなどが収納できる。あると便利です。

三衣袋(さんやぶくろ)
納経帳や経本、案内書、タオルなど、持物を納めて持ち歩くことができ便利です。

袈裟(けさ)
略式のお袈裟。お遍路の道中、ずっと身に着けている。食事やトイレなどの際は、一時的に取り外す。

白衣・笈摺(はくえ・おいする)
お遍路の基本は、白装束。昔の巡拝者が、死を覚悟して歩まれたことに由来する。笈摺には、お大師さまの宝号「南無大師遍照金剛」が記されている。

手甲
念珠(ねんじゆ)
読経の際に用いる道具。普段は手に掛けるか、出しやすいところにまとめておく。

白地下足袋

現在のお遍路さん

今日、お遍路を巡拝される方は、洋服の上に笈摺とお袈裟を着け、金剛杖・念珠・三衣袋などを持つスタイルが多いようです。運動靴など、お参りしやすい服装をお勧めします。

伊賀四国霊場の由来

三重県の北西部。歴史ある伊賀の地に、伊賀四国八十八ヶ所という霊場があります。伊賀は、昔より大和と伊勢を結ぶ要所であり、仏教文化の発達と共に、数多くの寺院が建立されてまいりました。
文久三年(1863)当時の伊賀四郡(阿拝・山田・伊賀・名張)に位置する九十の真言宗寺院をもつて、伊賀四国八十八ヶ所霊場が組織されました。

開創は、常福寺(第29番札所)の住職であった本田光照僧正。発願人、中野助次郎と共に四国巡拝に赴き、一ヶ寺ごとに本尊供を修して、その霊場の土砂を持ち帰りになられたと伝えられます。
伊賀四国八十八ヶ所霊場は、伊賀市と名張市に広がり、行程およそ七十里(280km)。

開創150年の星霜を経た今日もなお、宗旨を問わず、お大師さまのお徳を慕う多くの善男善女による巡拝が続いています。

ホームページのご案内

<http://www.iga-shikoku88.com/>

伊賀四国八十八ヶ所霊場 検索

伊賀四国八十八ヶ所霊場 霊場会事務局

〒518-0721
三重県名張市朝日町1272 観音寺 中
TEL0595-63-1304 FAX0595-64-9574
✉ info@iga-shikoku88.com